

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	学校教育全体を通じて、「知・徳・体」の調和のとれた、人間性豊かでたくましく生きることのできる生徒の育成に取り組む。 ア 学習活動を重視し、自己実現に向けた意欲的な態度の育成 イ 規範意識の確立と豊かな心の育成 ウ 自主・自立の精神の育成		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ○広い視野と確かな学力をもち、自ら見出した課題に、粘り強く取り組むことができる生徒 ○自分の良さや可能性を認識し、コミュニケーション能力を発揮して、多様な人々と協働できる生徒 ○心身の健康を常に心掛け、自律的な生活ができる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ○基礎的、基本的な知識、技能を習得させるとともに、地域との連携を大切にして「探究的な学び」を推進 ○すべての教育活動において共感的な人間関係づくりを進めるとともに、「対話を重視した楽しくわかる授業」を推進 ○校内外の活動における主体的な取り組みを支援することで、「自ら考え行動できる力」の育成を推進	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ○自己実現に向けて、学習に取り組む、何事にも挑戦したいという熱意のある生徒 ○自他を尊重し、人とのつながりを大切にする生徒 ○地域の一員としての自覚をもち、自主的な活動に積極的に参加したいという意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇「生徒指導」	
4 現状の分析	○開発的・予防的な生徒指導に努めており、問題行動の件数は低水準で推移している。 ▲交通事故が昨年度よりも増加した。ヘルメットの着用など交通安全に関して考える時間を取るなど、事故ゼロを目指して取り組んでいきたい。	
5 学校の抱える課題	・いじめ事案において、加害とされる対象が不明瞭である場合があり、対応に難しさを感じている。 ・努力義務下において、ヘルメットの着用率が低い状況となっている。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	○心の結び付きを大切に育みます。 ○信頼され協働し活躍する場面を作ります。 ○健康で安全な生活を営む態度を育成します。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 【規範意識の育成】職員と生徒、生徒と生徒が信頼関係を築ける時間、積極的に対話を重ねる時間を設け、その信頼感の上に立って、ルールやマナーを守らせます。 〈例〉教育相談週間(4月、11月) (2) 【自主性・主体性の育成】自分らしさを発揮しながら、自ら進んで取り組める行事や機会を提供します。教科指導では、授業中に生徒が活躍する場をつくります。 〈例〉中学生のための高校見学会、银杏祭(文化祭)、球技大会、家庭クラブ活動 (3) 【豊かな人間性の育成】「いじめに関するアンケート」を実施します。スクールカウンセラー、スクール相談員と連携し心のケアを行うとともに、「いじめを絶対に許さない学校」であり続けます。 (4) 【健康で安全な生活を営む態度の育成】健康診断の事前・事後指導の徹底を図ります。自主的な受診行動を促し、傷病を早期発見・早期治療する態度を養います。 (5) 感染予防指導を徹底し、感染拡大を防ぎます。	(1) 「生徒及び保護者アンケート」の「規範意識の育成」に係る肯定的な評価が、全て80%以上になることを目指します。 (2) 「生徒及び保護者アンケート」の「自主性・主体性の育成」に係る肯定的な評価が、全て80%以上になることを目指します。 (3) 生徒及び保護者アンケートの「豊かな人間性の育成」に係る肯定的な評価が、全て80%以上になることを目指します。 (4) 治療勧告書の配布方法の工夫、受診率の定期的な発信などの指導を通じて、健康診断後の受診率が50%以上になることを目指します。 (5) 感染拡大の未然防止を目指します。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・規範意識の育成を念頭に、全教員がルールやマナーについての見解を確認しつつ、身だしなみ指導、遅刻指導を行った。また、生徒指導部が中心となり、毎朝、校門での登校指導に取り組んだ。 ・自主性、主体性を育成するために、充実感や達成感を味わい、自己理解を深められるような授業や行事の実施を目指した。 ・現状、問題行動や一方的ないじめ行為は多くないが、コミュニケーション不足による人間関係のトラブルに悩む生徒が見られる。「いじめや差別への対応」の項目では、生徒、保護者ともに3%程が否定的な回答であった。昨年度より減少したが、未然防止、早期発見に努めるとともに、生徒間の絆を深める取り組みを推進したい。 ・生徒保健委員による校内放送を通じて、各検診の目的や健康情報を定期的に発信した。また、三者懇談時や長期休暇前の受診指導、クラス別受診率の算出、未受診者指導により受診率49%。年度末には目標達成の見込み。 ・「換気」「体調不良時の自宅待機」の2点を重点とした。全部屋にCO2モニター、サーキュレーター、ドアストッパーを設置し、換気を行った。必要な対策を行い、コロナ前と同様に学校	①生徒のみだしなみや規範意識は向上したか。 ②生徒の自主性・主体性を育成できたか。 ③生徒の豊かな人間性を育成ができたか。 ④健康診断後の受診率が向上したか。 ⑤換気と体調不良時の自宅待機ができたか。	A B C D A B C D A B C D A B C D A B C D

<p>行事を実施できた。また、多くの学校で学級閉鎖措置がとられる中、本校での感染拡大はほぼみられなかった。</p>		
<p>12 成 果 ・ 課 題</p>	<p>○人権講話では、個人の尊厳を重んじ、偏見や差別を許さず他を思いやり、多様性を受け入れ認め合える人権意識を培うことを目標とし、LGBTQ+について講師より話を聞いた。生徒の感想も理解が深まったという内容がたいへん多かった。 ▲授業への積極的な参加については、まだまだ改善の余地がある。生徒の自主性・主体性を発揮できるような場を設定するなど、授業改善を進め、充実感や達成感から自己有用感を感じさせていきたい。</p>	<p>総 合 評 価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の命を大切にすることを育む教育の推進。 ・生徒にルールやマナーを守らせるのではなく、生徒自らが遵守する姿勢を育成していく。 ・生徒の自主性・主体性を育むようなLHRが充実するような校内の仕組みづくり。 ・生徒の自己有用感を高めるための取組みの推進。 ・生徒が楽しめ、主体的に参加できるような授業改善の推進。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月25日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詰襟、ブレザー、リボン、ネクタイなどを自由に組み合わせることが出来る現在の本校の在り方は、学校の特色が出せる良い取組みである。今後さらに制服のバリエーションを考えて、選択肢を増やしていくとよい。 ・ヘルメット着用は、部活動単位などで生徒同士が声かけをし合える仕掛けがあるとよい。
--